



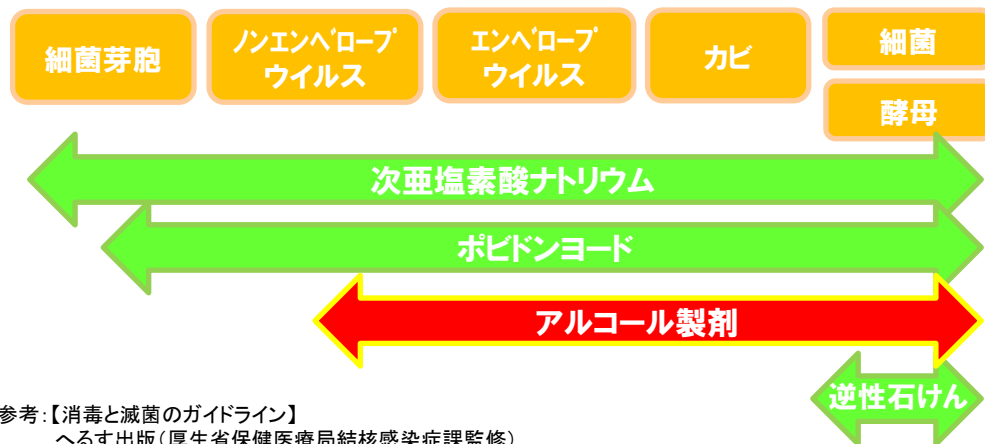
アルコール製剤について

インフルエンザウイルスやノロウイルスなどの感染予防のために知っておきたいアルコール製剤の特徴についてご紹介します。

感染予防のために使用する薬剤は、「対象となる病原微生物に対して有効」であり、「使い勝手がよい」ものを選定することが求められます。アルコール製剤の有効性や利点、注意点、使用できる材質などをご説明します。

●薬剤の殺菌スペクトル●

各薬剤の病原微生物等に対する有効性を示す“殺菌スペクトル”を見ると、アルコール製剤は様々な微生物に対して効果があることが分かります。



参考:【消毒と滅菌のガイドライン】

へるす出版(厚生省保健医療局結核感染症課監修)

アルコール製剤の利点

簡便性

スプレーガンを使用することによって、広い面積に均一に噴霧することが可能なうえ、使用後に水洗いの必要がありません。

安全性

食品添加物として販売されているアルコール製剤は食品への直接使用が可能です。そのため食品に直接触れる器具などにも安心して使用できます。

※食品添加物ではない指定医薬部外品などのアルコール製剤は食品に使用できない成分が含まれていることがあります。用途に合わせてご使用ください。

インフルエンザウイルス※への有効性

インフルエンザの感染経路のうち、アルコール製剤の使用により、**接触感染を防ぐことが可能です。**

■ポイント■

- ・手指の消毒
- ・多数の方が手で触れる箇所の消毒(手すり、取っ手など)

※インフルエンザウイルスはエンベロープウイルスに分類されます



ノロウイルス※とアルコール製剤について

大量調理施設衛生管理マニュアルにて、「ノロウイルスに対してのエタノール系消毒剤(アルコール製剤)には不活化効果が期待できるものがある」と追記されました。(平成29年6月16日改正)

【大量調理施設衛生管理マニュアルより抜粋】 ※ノロウイルスはノンエンベロープウイルスに分類されます

注1: 塩素系消毒剤(次亜塩素酸ナトリウム、亜塩素酸水、次亜塩素酸水等)やエタノール系消毒剤には、ノロウイルスに対する不活化効果を期待できるものがある。使用する場合、濃度・方法等、製品の指示を守って使用すること。浸漬により使用することが望ましいが、浸漬が困難な場合にあっては、不織布等に十分浸み込ませて清拭すること。

(参考文献)「平成27年度ノロウイルスの不活化条件に関する調査報告書」

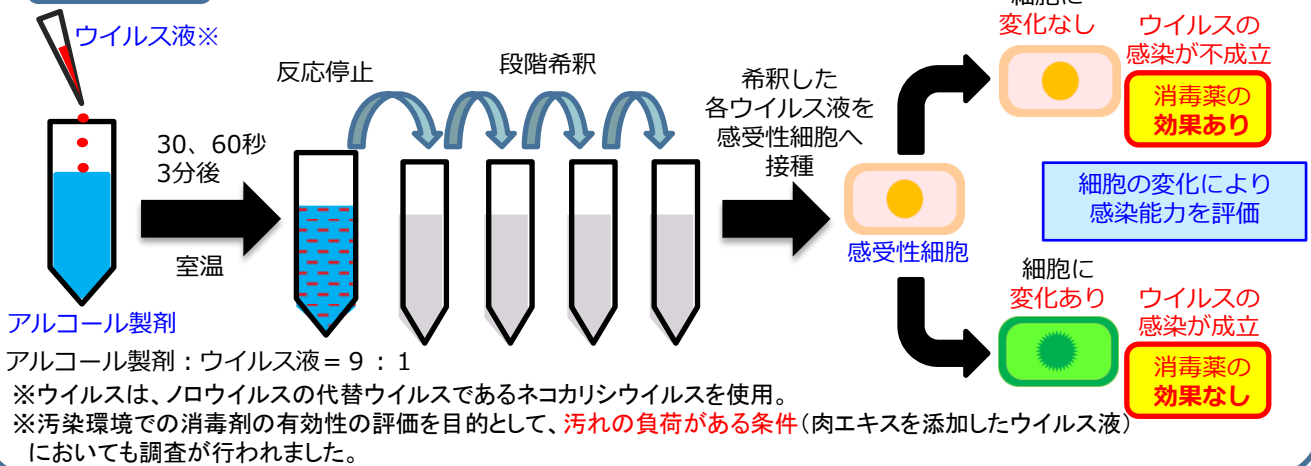
(<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11130500-Shokuhinanzenbu/0000125854.pdf>)



不活化効果の調査報告書のうち、アルコール製剤の調査内容についてご紹介します。

検査方法

市販されている11種類のアルコール製剤について調査



11種類のアルコール製剤における調査結果

検査結果		効果あり	効果なし	計
負荷無し	30秒	7	4	11
	60秒	7	4	11
	3分	7	4	11
負荷あり (肉エキス 添加)	30秒	1	10	11
	60秒	2	9	11
	3分	3	8	11

効果が見られたものは一部のアルコール製剤ですので、アルコール製剤の選定には試験結果なども参考にしましょう。

アルコール製剤の取り扱い注意

- ・火気厳禁です。火の近くでの使用は控えましょう。
- ・使用時に換気を行いましょう。
- ・酒類等と間違わないように容器などには表示をしましょう。

アルコール製剤の材質への影響

アルコール製剤は、材質への影響が比較的穏やかです。

材質		影響※
プラスチック	PE ポリエチレン	○
	PP ポリプロピレン	○
	PET	×
	ABS樹脂	△
ステンレス		○
銅・亜鉛		×

※目安となりますので、気になる場合は隅や裏面等で事前に確認しましょう。